

植田リサ v n & ダニエレ・リナルド p

英国王立音楽院卒、現在もロンドンを拠点に活動中という若手ヴァイオリニストの植田リサが、イタリア出身のピアニスト、同じく若手のダニエレ・リナルドと組んでのデュオ・リサイタル。曲目はベートーヴェン《クロイツェル・ソナタ》を中心に据え、前にヤナーチェク「ソナタ」、後にはファリャ《スペイン民謡組曲》、レスピーギ「ソナタ」を置くという構成。植田はヤナーチェクの最初のフレーズから「情熱的な奏者、という印象を与えたが、この曲そして特にベートーヴェンでは、ピアニストともども、しっかりと形を整えて仕上げることに意を用いている、という気がした。私の聴く処では二人が本領を発揮したのは後半で、十分に気持ちを込め味わいよく弾き上げたファリャに加え、結びのレスピーギ、口短調3楽章の「ソナタ」が、じつに出色の出来映えであった。いわゆる定番にはならなくとも、この曲が実質からすれば後期ロマン派の逸品と呼んでいい情感豊かな楽曲であることを、このデュオは証明してくれた。

《クロイツェル》が彼らの「表看板」とすれば、レスピーギは「本当に弾きたい曲、だったに違いない。

(1月21日・王子ホール)〈濱田滋郎〉『音楽の友』3月号



植田リサ v n & ダニエレ・リナルド p

英国王立音楽院卒、現在もロンドンを拠点に活動中という若手ヴァイオリニストの植田リサが、イタリア出身のピアニスト、同じく若手のダニエレ・リナルドと組んでのデュオ・リサイタル。曲目はベートーヴェン《クロイツェル・ソナタ》を中心に据え、前にヤナーチェク「ソナタ」、後にはファリャ《スペイン民謡組曲》、レスピーギ「ソナタ」を置くという構成。植田はヤナーチェクの最初のフレーズから、情熱的な奏者、という印象を与えたが、この曲そして特にベートーヴェンでは、ピアニストともども、しっかりと形を整えて仕上げることに意を用いている、という気がした。私の聴く処では二人が本領を発揮したのは後半で、十分に気持ちを込め味わいよく弾き上げたファリャに加え、結びのレスピーギ、口短調3楽章の「ソナタ」が、じつに出色の出来映えであった。いわゆる定番にはならなくとも、この曲が実質からすれば後期ロマン派の逸品と呼んでいい情感豊かな楽曲であることを、このデュオは証明してくれた。《クロイツェル》が彼らの「表看板」とすれば、レスピーギは「本当に弾きたい曲、だったに違いない。(1月21日・王子ホール)〈濱田滋郎〉